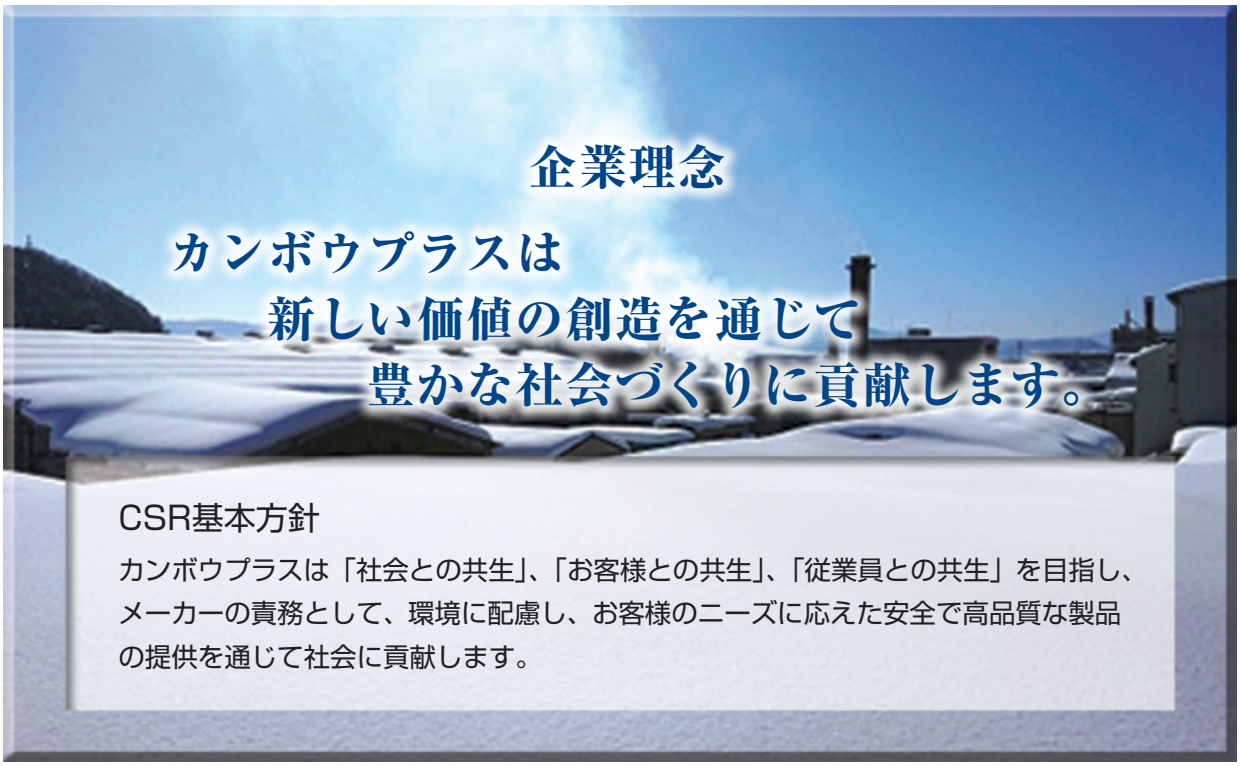
2019
CSR報告書
カンボウプラス

CSR：Corporate Social Responsibility

新しい価値の創造を通じて、
豊かな社会づくりに貢献します。

KANBO PRAS



企業理念

カンボウプラスは
新しい価値の創造を通じて
豊かな社会づくりに貢献します。

CSR基本方針

カンボウプラスは「社会との共生」、「お客様との共生」、「従業員との共生」を目指し、メーカーの責務として、環境に配慮し、お客様のニーズに応えた安全で高品質な製品の提供を通じて社会に貢献します。

CONTENTS

トップメッセージ	2
社会とのかかわり	3
環境とのかかわり	6
その他のかかわり	9
ISO26000対照表	11

カンボウプラスの概要

代　表　者	代表取締役社長　中村信治
設　　立	1939年3月24日
資　本　金	10億2,030万円
決　算　月	3月
従　業　員	170人
主要事業	1. ファイバー（繊維）とプラスチック（樹脂）の複合化による キャンバスの製造と販売 2. キャンバスをデザイン・設計・縫製した製品の販売 3. 一級建築士事務所　建築物・工作物の設計・施工
事　業　所	本社、東京支店、福井工場
外部認証	福井工場　ISO9001、ISO14001

創立80周年を迎えて

カンボウプラスは『おかげさまで80周年』を迎えました。これもひとえにご支援いただきました皆さまのおかげだと思っております。誠にありがとうございます。「売り手良し」「買い手良し」「世間良し」という言葉のもと、皆さまとともに歩ませていただいた80年だったと、こころより感謝しております。

カンボウプラスは戦前の軍事用途から始まり、昭和期50年（高度成長期）、平成期30年（安定・変動期）を経て令和期を迎えました。過去から何がどのように変わったのか。実際には大きくは変わっていません。帆布・ターポリン・テントなどをしっかりと作り、社会に貢献させていただいていると自負しておりますが、これまでは極端に変わったことはありません。90年、100年と成長するためには新しいものを加え続けるという思いを込めて『新加するカンボウプラス』新しいものを加えて社会に貢献する企業を目指してまいります。

新しいものを１つ例に挙げますと、2018年にLEDビジョンを東京の秋葉原と渋谷に設置させていただきました。また、今後はハードだけでなく、ソフトなどにも関わっていきたいと思っております。カンボウプラスがターポリンやテントに加えて新しいものに携わっている、80年の歴史にないものを加えていると感じていただければ幸いです。

最近の企業を取り巻く環境をキーワードとして挙げると、国土強靭化・REACH規則・RoHS指令・物流改革・働き方改革・BCPなど多くのもが出てきますが、カンボウプラスが特に注目するキーワードは、ESG投資・SDGs経営です。特にSDGs経営は国連により採択された「持続可能な開発目標」であり、毎日のように新聞紙上などで取り上げられています。17の目標と169のターゲットを当社としても強く意識して、取り組みを進めてまいります。

カンボウプラスのCSR報告書は2002年からスタートしており、このデータの蓄積を十分に生かし、社会に貢献する企業を目指し続けます。
このたび2018年度の活動をまとめた「2019CSR報告書」を発行いたしました。皆さまの忌憚のないご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

代表取締役社長　中村信治

当社商品のご紹介

吸音シート

用途
建築現場、工場内外、工事現場など

目的　騒音対策

騒音を「遮音」するだけでなく「吸音」することで、「反響音」対策も可能に。

ウエイトマイスター

用途
イベント、工事現場での
テント・立て看板のウエイトとして

目的　安全対策
丈夫で柔軟なポリエステル帆布を使用。
強風による飛散防止、接触時の怪我も
軽減します。

イベントへの参加

日本インドネシア国交樹立60周年記念 “フェスティバルインドネシア”

日本とインドネシアの国交樹立60周年を記念したイベントに出展させていただきました。

大会モニュメントとなるエアーアーチ、インドネシアの象徴ともいえるコモドドラゴンのプリントを施したプール、災害用の大型エアーテントなどを展示しました。

単なるイベント商品だけでなく、災害時の救護や熱中症対策をイメージできる展示に、来場者の方々の好評価も数多くいただきました。

開 催 日：2018年7月28日～29日

場　　所：日比谷公園（東京都千代田区）

参加企業：トヨタインドネシア・シナルマスグループ・ガルーダ航空　など

品質方針

福井工場は、全員の責任と役割を明確にし、お客様の満足度向上に努める。

福井工場は、法令を遵守し、社会的規範となる。

福井工場は、設定した品質目標を達成させ、かつ継続的に改善する。

福井工場は、品質マネジメントシステムの有効性を定期的に見直す。

改定　2013年12月1日

苦情発生状況

コンプレイン・調査を含む苦情発生連絡受理件数は、前期同様低水準でした。

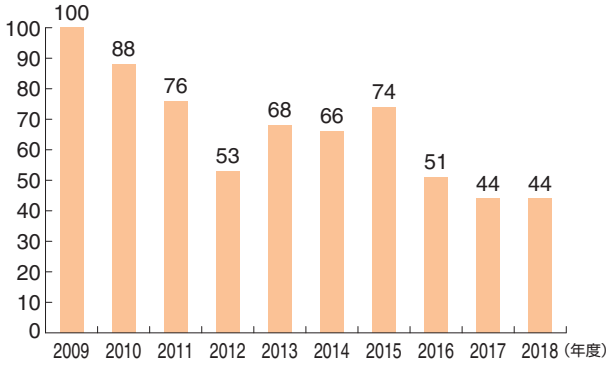
最近は、調査的意味合いが強く、当社への相談ともとれる内容の案件が増えています。

また、当社製品の本来性能の不足や不安定性に対してのご指摘をいただき、性能の向上、品質の安定に繋がった案件もありました。

引き続きお客様のご指摘を真摯に受け止め、品質の安定・向上に努めてまいります。

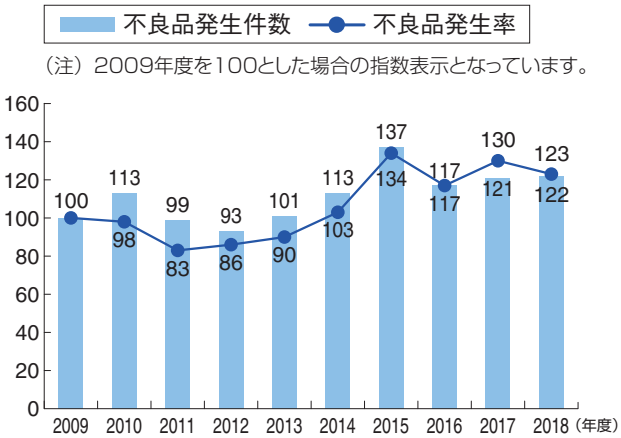
苦情発生件数推移

（注）2009年度を100とした場合の指数表示となっています。



不良品発生状況

「加工条件の見直し」、「確実な工程内検査」、「作業要領の改善、維持」などを日々実施しておりますが、直近3年は、ほぼ横ばいの状態にあります。不良品発生率を減らすべく、発生原因を突き止め、改善を進めてまいります。



小集団活動

福井工場では、現場力向上のための小集団活動に取り組んでいます。

10チームが品質や生産性の向上などをテーマに活動しており、さらに労災ゼロを目指して、作業標準書の見直しやリスクアセスメントにも積極的に取り組んでいます。

安全面の取り組み強化の結果、製造部門を含む全社で労災ゼロを達成しました。

環境方針

当社は、地球環境と自然保全に努め、より安全な製品を提供し続けて『環境のカンボウ』を目指します。

『環境基本方針』
当社は産業資材、工業資材、生活資材及びその他の樹脂加工繊維製品の生産を中心とした企業活動において、環境負荷の低減を目指し、以下の方針に則って行動します。

1．当社は、地域社会と協調し、対話を大切にし、環境管理活動を通じて社会に貢献します。
2．当社の事業活動において、省資源、廃棄物の削減、環境負荷物質の管理を行い、汚染の予防を含めた、より良い環境の維持、向上に取り組みます。
3．定期的な内部環境監査の実施により、環境管理活動の実施状況と結果を確認し、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。
4．当社の事業活動に関係する環境関連法規制及びその他の要求事項を遵守します。
5．当社の事業活動にかかわる環境側面について、環境目的及び目標を設定します。また、環境目的及び目標は、環境方針と共に、年一回見直しを行います。
6．環境方針は、環境方針書として文書化し、環境マネジメントシステムにより実行、維持します。
7．環境方針は、全従業員に周知認識し、方針に則って行動するように、全従業員に対する教育、訓練を実施します。

本環境方針は、社外からの要求、その他必要に応じて公表します。

改定　2008年４月１日

事業活動における環境負荷（福井工場）

INPUT

水資源	937千ｔ
エネルギー	3,660kl
薬品・着色剤	6,122t
フィルム類	2,272km
基布類	20,216㎡

事業活動

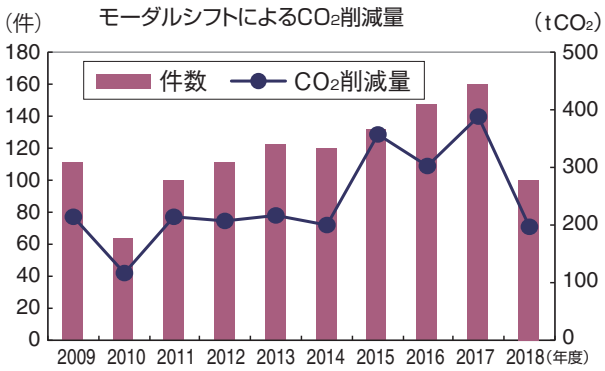
生産数量
19,477㎡

OUTPUT

廃棄物リサイクル量	406t
廃棄物リユース量	96t
最終処分廃棄物量	991t
CO_2排出量	8,498t

地球温暖化防止への取り組み

営業との協力でお客様へ理解を求めＪＲコンテナの利用を推進してきており、2017年度までは順調に件数が伸びてきました。しかし、2018年度は西日本の豪雨災害によりＪＲ路線の不通のためＪＲコンテナの利用が思うようにできませんでした。その結果、大幅な減少となりました。



エネルギー消費量とCO2排出量

2018年度は前年度より生産数量が増加しているので、原単位ではいずれも減少方向に推移するはずですが、2017年度とほぼ変わらない結果となりました。

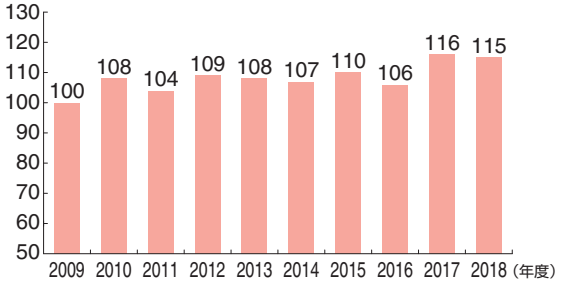
エネルギー別でみると、電気は2％以上減少しましたがA重油は3％増、LPGは微増となりました。

生産増加の工程に偏りがあったこと、駆動装置のインバータ化、照明(水銀灯)のLED化、スチームトラップのメンテナンスが遅れたことなどが要因となりました。

省エネ設備の導入、生産効率の向上策の実施、点検・修理などにより、エネルギー消費量原単位の減少を目指していきます。

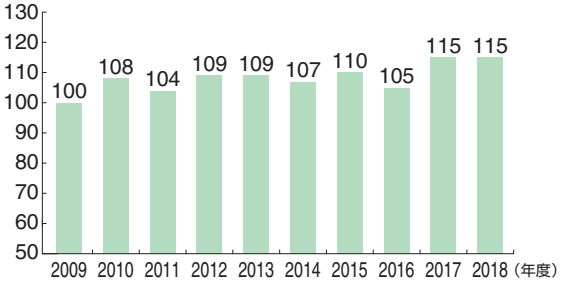
エネルギー消費量原単位推移

（注）2009年度を100とした場合の指数表示となっています。



CO_2排出量原単位推移

（注）2009年度を100とした場合の指数表示となっています。

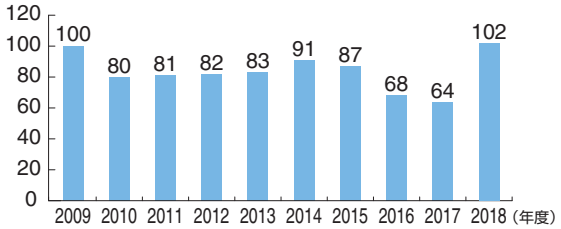


廃棄物削減への取り組み

サーマルリサイクルにて処理していた排出物が埋め立てへ転じたため生産量の増加とともに最終処分量も増加しました。同時にリサイクル量もこの分が減少したため大幅な減少となりました。排出方法(より細かな分別)の工夫により新たにリサイクルへの可能性を模索しています。

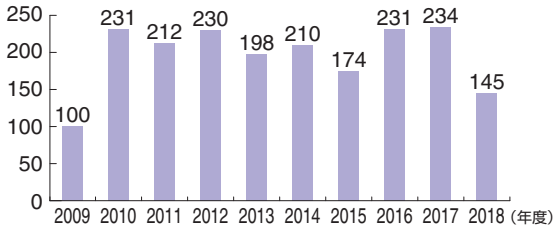
最終処分廃棄物量推移

（注）2009年度を100とした場合の指数表示となっています。



リサイクル・リユース量推移

（注）2009年度を100とした場合の指数表示となっています。



化学物質管理・削減

法令遵守はもちろん、化学物質の有害性の把握に努め、有害物質の使用削減に取り組んでいます。また、定期的な作業環境の測定を実施し、作業環境の改善に取り組んでいます。

2018年度は、新たに局所ファンの設置、冷風装置の更新などを行い、職場の環境改善に取り組みました。

PRTR法への対応

2018年度の生産数量(面積)は対前年度比で約６％増でしたが、PRTR対象物質の取扱量は前年より約17%の増加となり、原単位指数は微増傾向となっています。

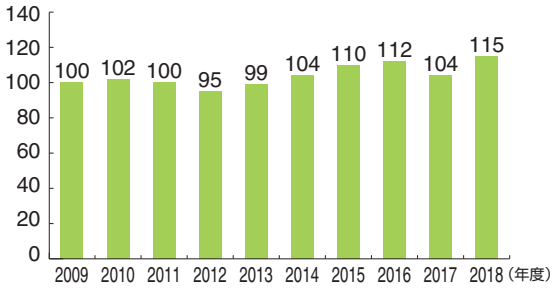
これは溶剤とアンチモンを使用する生産品の増加傾向は続いていることが主要因と思われます。

またフタル酸ビス(２－エチルヘキシル)の使用は、RoHS2指令の発効により一部DINP化されたとはいえ、増産の影響を受け取扱量は増加しています。

PRTR対象物質の取扱量は微増傾向ですが、最近の５年間は2009年比で移動量は約６割程度、排出量は約４割程度で推移しています。

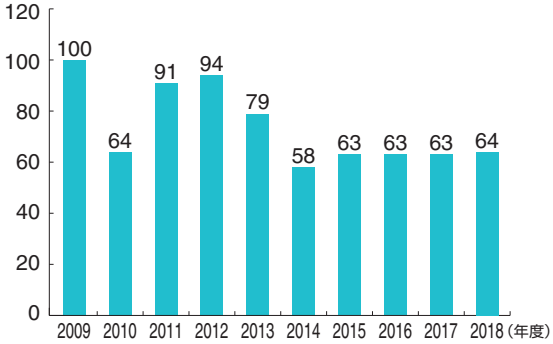
PRTR対象物質取扱量推移

（注）2009年度を100とした場合の指数表示となっています。



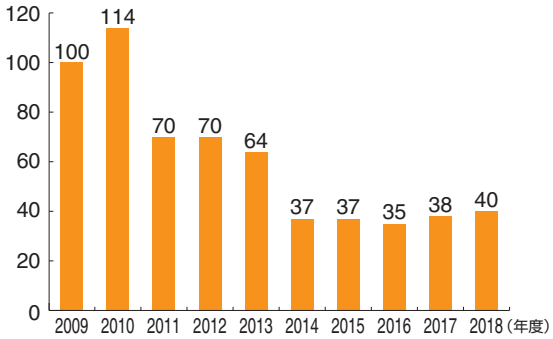
PRTR対象物質移動量推移

（注）2009年度を100とした場合の指数表示となっています。



PRTR対象物質排出量推移

（注）2009年度を100とした場合の指数表示となっています。



環境負荷低減製品開発への取り組み

環境負荷物質の使用削減、使用時の環境負荷低減に効果のある環境配慮型商品の開発に取り組んでいます。

RoHS指令は重金属を含む６物質から2019年7月よりフタル酸系可塑剤4種類を含む10物質となります。当工場では、RoHS指令に対応できる商品開発を実施しております。

グリーン推進活動

第9回ニチバン巻心ECOプロジェクトに参加しました。

毎年、ノーマイカー活動、エコキャップ活動、事業所周辺の美化運動を継続的に実施しています。また、環境省や地域の主催するイベントにも参加するなど、ボランティア活動も行っています。

2018年度は、ニチバン株式会社様が主催しています第９回ニチバン巻心ECOプロジェクトに参加しました。

この活動はニチバン株式会社様が粘着テープの巻心を回収し、資源として再利用するECO活動です。

カンボウプラスでは、この活動に共感し、社員の環境教育、啓蒙のため参加させていただきました。

感謝状を頂きました。
今後も継続して、活動していきます。

従業員への教育

人材育成を経営の重要課題と考え、職種別研修、特別研修、事故啓発のための通信教育支援などを実施しています。また、定額制社外研修制度を設け、社外ビジネスセミナーへの参加も実施しています。2018年度より社内人材の育成を図る目的で社内講師による研修を実施しました。社会から愛され信頼される企業であり続けるため、今後も従業員教育の充実を図り、能力向上に努めていきます。

実施月	研修名	研修内容
2018年 4月	新入社員研修	新・社会人ビジネスマナー基礎研修、社外安全講習等
2018年 4月	管理職研修	「経営計画」と「経理知識の向上」について
2018年 5月	営業職研修	しくじり先生。失敗から学ぶこと（社内講師）
2018年 6月	中級者研修	中堅社員研修
2018年 9月	技術職研修	塩ビの基礎知識
2018年10月	管理職研修	重布とカンボウプラス80年（社内講師）
2018年11月	監督職研修	情報セキュリティ研修（社内講師）
2018年12月	事務職研修	情報セキュリティ研修（社内講師）
2019年 1月	新入社員フォローアップ研修	「仕事の基本、職場のルール」と「安全」について
2019年 2月	昇給者研修	リーダー・主任・係長の実践力強化セミナー、CSRとメンタルヘルスについて
2019年 2月	カンボウカレッジ	ヤマトグループ　関西ゲートウェイ
2019年 3月	製造職研修	安全と品質管理（社内講師）

新入社員研修

営業職研修

公的資格取得の推進

2012年度に従業員の能力向上と自己啓発を促進するため、公的資格支援規定を策定し、従事業務に主体性をもって遂行できるよう各種公的資格の取得を進めています。2018年度は、福井工場で1級機械保全技能士（設備診断作業、機械系）、甲種危険物取扱者、ボイラー技士、5t未満クレーン運転、玉掛け技能、はい作業、フォークリフト運転技能など36名が公的資格を取得しました。

雇用延長制度

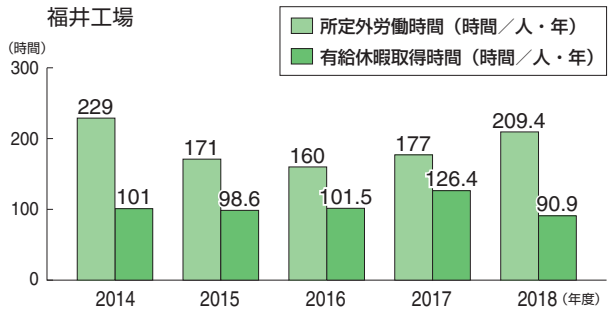
2006年度に60歳で定年を迎えた従業員に対して再雇用制度を創設し、雇用延長者の知識やキャリアを生かして若年者従業員の育成などを行っています。また、2012年度には、年金不支給期間への対応として、65歳までの雇用延長制度を確立しました。

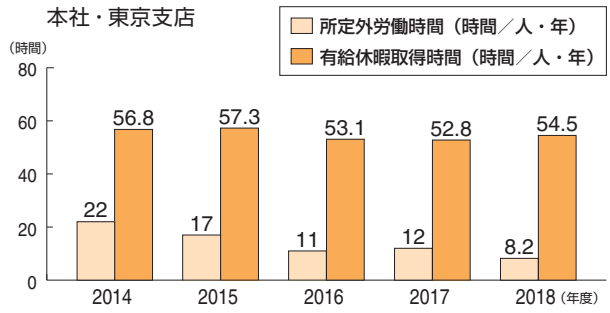
（人）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
定年退職者数	4	2	3	1
雇用延長者数	4	0	3	0
雇用延長者合計	21	19	19	14

ワークライフバランス

仕事と生活の調和(ワークライフバランス)を目的に、ノー残業デー・最終退出時間の設定と誕生日有給休暇・一斉有給休暇の取得を推進し、総労働時間の削減と長時間労働の撲滅に取り組んでいます。2018年度は台風等の自然災害での受注増のため、福井工場の所定外労働時間が増える結果となりました。





労働安全衛生

カンボウプラスでは、安全衛生パトロールや労使合同で開催する安全衛生委員会を通じて、全従業員が安全で働きやすく、健康に配慮した職場の確保に努めています。

主な活動	事業所
安全衛生管理活動計画表の策定	本社・東京・福井工場
安全衛生委員会の定期開催(労使合同)	本社・東京・福井工場
安全衛生パトロールの定期実施と是正処置	本社・東京・福井工場
新入社員への安全衛生教育の実施	本社・東京・福井工場
定期健診、生活習慣病予防検診、健康相談会の実施	本社・東京・福井工場
マスクの配布、うがい薬・消毒薬の設置	本社・東京・福井工場
ストレスチェックの実施	本社・東京・福井工場
作業環境測定の実施	福井工場
特殊健康診断の実施	福井工場
安全衛生コンサルタントによる工場パトロール(毎月)	福井工場
安全衛生コンサルタントによる講和	福井工場
冬用タイヤ装着確認	福井工場

労働災害発生件数

製造部門である福井工場では、2017年度に4件の労働災害が発生し、福井労働局より2018年度に安全管理特別指導事業場に指定されました。2018年度は労災ゼロを実現するため、安全教育やリスクアセスメントのさらなる推進、安全衛生コンサルタントによる工場パトロール・指導など安全対策をより一層進めてまいりました。

結果、労災ゼロを実現し、安全管理特別指導事業場の指定は2019年3月末で解除されました。

休業労働災害発生件数

2014年度	1件
2015年度	2件
2016年度	2件
2017年度	4件
2018年度	0件

内部通報制度

カンボウプラスは「カンボウ・ヘルプライン」と呼ぶ内部通報制度を設けています。これにより内部情報提供者の保護を図るとともに、違法行為等の早期発見と是正を図り、コンプライアンスの強化に努めています。

緊急事態への備え

2016年4月1日より『事業継続マネジメントシステム(BCMS)』の運用が始まりました。

BCMSに関する教育・研修を実施しながら、継続的改善を行っており、2018年6月1日に更新を行いました。2018年6月18日の大阪府北部地震の際にはBCPを発動し、安否確認を実施しました。

ISO26000対照表

ISO26000の7つの中核主題および課題に対して、当CSR報告書に掲載している取り組み内容および関連するSDGsを対比させました。

ISO26000の中核主題	課　題	カンボウプラスの取り組み		関連するSDGs	ページ
組織統治		企業理念			1
人権	1．デューティリジェンス 2．人権に関する危機的状況 3．加担の回避 4．苦情解決 5．差別及び社会的弱者 6．市民的及び政治的権利 7．経済的、社会的及び文化的権利 8．労働における基本的原則及び権利	その他の かかわり	従業員への教育 雇用延長制度 ワークライフバランス 内部通報制度		9 9 10 10
労働慣行	1．雇用及び雇用関係 2．労働条件及び社会的保護 3．社会対話 4．労働における安全衛生 5．職場における人材育成及び訓練	社会との かかわり	小集団活動		5
		その他の かかわり	従業員への教育 公的資格取得の推進 雇用延長制度 ワークライフバランス 労働安全衛生		9 9 9 10 10
環境	1．汚染の予防 2．持続可能な資源の利用 3．気候変動の緩和及び気候変動への対応 4．環境保護、生物多様性及び 自然生息地の回復	社会との かかわり	商品紹介		3
		環境との かかわり	環境方針 地球温暖化防止への取り組み エネルギー消費量とCO_2排出量 廃棄物削減への取り組み 化学物質管理・削減 PRTR法への対応 環境負荷低減製品開発への 取り組み グリーン推進活動		6 6 7 7 7 8 8 8
公正な事業慣行	1．汚職防止 2．責任ある政治的関与 3．公正な競争 4．バリューチェーンにおける 社会的責任の推進 5．財産権の尊重	その他の かかわり	従業員への教育 内部通報制度		9 10
消費者課題	1．公正なマーケティング、事実に即した 偏りのない情報及び公正な契約慣行 2．消費者の安全衛生の保護 3．持続可能な消費 4．消費者に対するサービス、支援、 並びに苦情及び紛争の解決 5．消費者データ保護及びプライバシー 6．必要不可欠なサービスへのアクセス 7．教育及び意識向上	環境との かかわり	化学物質管理・削減 PRTR法への対応 環境負荷低減製品開発への 取り組み		7 8 8
コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展	1．コミュニティへの参画 2．教育及び文化 3．雇用創出及び技能開発 4．技術の開発及び技術へのアクセス 5．富及び所得の創出 6．健康 7．社会投資	社会との かかわり	イベントへの参加		4
		環境との かかわり	グリーン推進活動		8

カンボウプラス株式会社
〒541-0054
大阪市中央区南本町1-8-14　堺筋本町ビル
TEL 06-6262-1277　FAX 06-6262-9419
URL http://www.kanbo.co.jp/